

所報 **たまじむ**

発行 令和元年11月1日  
 通算 第75号  
 (創刊 平成7年7月1日)  
 東京都多摩教育事務所  
 [東京都立川市錦町 4-6-3]  
 Tel 042-524-7222  
 Fax 042-528-0985

## 教師の力を、今こそ

東京都多摩教育事務所 管理課長  
 渋 澤 明

学習指導要領の全面实施、それに伴う評価の在り方の変更、プログラミング教育の導入など教育を取り巻く環境は劇的に変わりつつあります。



「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を実践していくためには、「同じことを、同じペースで」という、先生が一斉に子供に知識を与えていくような形態の授業では、通用しないことは明らかです。また、近い将来は、スマートスクール構想により、一人一台のタブレット端末を利用しつつ学習を進めていくことになるでしょう。現に、子供たちはスムーズにスマホを操り、また、学習の苦手分野を AI により発見し学習を支援していくソフトが利用されている現状がある中で、教師の役割は一体どのようなものになるのでしょうか。

私は、これからは、知識を与えるというよりは、子供を主体的な学習に向かわせること、個々の子供の人生にモチベーションを与えることが教師の中心的な役割になっていくのではないかと考えています。例えば、野鳥の生態や花の種類について授業で学んだ子供たちが、それを契機に学習に向かい、将来、学者や花屋を目指していく、そして、大人になってからも地球規模の環境問題に関心をもっていくというように……。

確かに、教師を取り巻く環境は劇的に変わりつつあり、この変化に対応していくことには、多くの労力が必要となると思います。しかし、今まで以上に子供たちの個々の能力を意識せざるを得ない状況になってきた「今だからこそ、教師の力が存分に発揮できる」のではないのでしょうか。

子供は、学校で、教師という縁に触れ、人生へのモチベーションを高めていきます。その意味で、教師の存在はとても重要です。どれだけの情熱をもって、子供一人一人の可能性に目を向け、期待し、モチベーションを与えることができるかが「教師の力」であると思います。そして、一人一人の子供にとって、教師はかけがえのない存在なのです。

皆さんには、子供に人生のモチベーションを与えられる存在となってほしいと願っています。

◇ ◇ 目 次 ◇ ◇	
【巻頭言】 教師の力を、今こそ	1
【特集①】 プログラミング体験を通じた学習活動の充実	2～3
【特集②】 【小学校】 新学習指導要領の全面实施に向けて ～主な指導のポイントと配慮事項～	4～5
【特集③】 【中学校】 新学習指導要領の全面实施に向けて ～主な指導のポイントと配慮事項～	6～7
【情 報】 観点別学習状況の評価の考え方	8

本号については、東京都多摩教育事務所のホームページからダウンロードできます。  
 ファイルの形式はPDFです。

<http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp/>

# プログラミング体験を通じた学習活動の充実

- ◆ 小学校では令和2年度から新学習指導要領の全面実施に伴い、プログラミング教育が始まります。
- ◆ プログラミング教育のねらいを実現するためには、児童がプログラミングに取り組んだり、コンピュータを活用したりすることの楽しさや面白さ、ものごとを成し遂げたという達成感等を味わうことが重要です。そのために教師は、児童がプログラミングを体験する学習活動を取り入れていく必要があります。

- ◆ 文部科学省「小学校プログラミング教育の手引き（第二版）」では、小学校段階のプログラミングに関する学習活動の分類の一例を示しており、これらを参考にして学校はプログラミング体験を通じた学習活動を適切に実施していくことが求められています。
- ◆ そこで本特集では、プログラミング体験を通じた学習活動の例を紹介します。

## プログラミング教育のねらい

① 「プログラミング的思考」を育むこと

② プログラミングの働きやよさ、情報社会がコンピュータでできるとともに、コンピュータ社会を築いたりしようとする態度を育むこと

③ 各教科等の内容を指導する中で実施する場合には、各教科等での学びをより確実なものとする

(T: 教師 C: 児童)

### 学習指導要領に例示されている単元等で実施する例

#### 第5学年算数 プログラミングを通して、正多角形の意味を基に正多角形をかく学習活動

自分の意図する動きをどのように組み合わせるか論理的に考えていく力の育成(図形の性質を見だし、その性質を筋道を立てて説明することができる。)

<画面上的動き>

<プログラミングの様子>

3 回繰り返す  
60 度回す

C: 正三角形は、辺が3つで、角の大きさは60度だから「3」と「60」と入力してみます。  
C: 正しくかけません。  
C: 回転する角度だから180度から60度を引いたら「120」を入力してみたら正三角形ができました。  
T: では正六角形をかくためには、どのような数を入力したらできるでしょうか。

※ 使用したプログラミングソフトは、Scratch(スクラッチ)です。

### 学習指導要領に示されている各教科等の内容を指導する中で実施する例

#### 第2学年音楽 プログラミングを通して、様々なリズム・パターンを組み合わせる音楽をつくる学習活動

意図したものに近付けるために、記号を組み合わせる論理的に考える力の育成(リズム・パターンを組み合わせ、思いや意図に合った音楽を考えることができる。)

T: (ア) から (カ) を組み合わせるおまつりに合った曲を作りましょう。

(ア) ドンカカ (イ) ウドドン (ウ) ドンウン (エ) ドコドン (オ) ドンドン (カ) ドコドコ

ドン カカ ウド ドン ドン ウン ドコ ドン ドン ドン ドコ ドコ

<画面上的動き>

<プログラミングの様子>

(ア) ドンカカ (オ) ドンドン (ウ) ドンウン

ドン カカ ドン ドン ドン ウン

C: おまつりのリズムにするためには、どういう組み合わせがいいのかな。  
C: 「ドンカカ」を繰り返したらおまつりのリズムになりました。

※ 使用したプログラミングソフトは、Scratch(スクラッチ)です。

## プログラミング教育で育成を目指す資質・能力

### 学びに向かう力、人間性等

発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること

- ・ 身近な問題の発見・解決に、生かそうとする。
- ・ コンピュータ等を上手に活用して、よりよい社会を築いていこうとする。
- ・ 主体的に取り組む態度を涵養すること。
- ・ 他者と協働しながら粘り強くやり抜く態度の育成
- ・ 著作権等の自他の権利を尊重したり、情報セキュリティの確保に留意したりすること。

### 知識及び技能

身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと

- ・ コンピュータはプログラムで動いていること。
- ・ プログラムは人が作成していること。
- ・ コンピュータには得意なこととなかなかできないことがあること。
- ・ コンピュータが日常生活の様々な場面で使われて、生活を便利にしていること。
- ・ コンピュータに意図した処理を行わせるためには、必要な手順があること。

### 思考力、表現力、判断力等

発達の段階に即して、『プログラミング的思考』を育成すること

「プログラミング的思考」  
自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近付くのか、といったことを論理的に考えていく力

### 各教科等とは別に実施する例

#### 裁量の時間 プログラミング言語やプログラミングの技能の基礎についての学習活動

プログラミング言語やプログラミングに関する基礎的な知識や技能の習得(画面上に描いた絵に指示を出して思うように動かすことができる。)

<画面上的動き>

<プログラミングの様子>

T: パソコンでかいた「海に住む生き物」の絵を動かします。「めがね」の右と左を比べてみましょう。  
C: 左の「めがね」にあるクラゲよりも、右の「めがね」にあるクラゲを少し下に置くくらげが下に進みました。  
C: イカを少し上にずらして置いたら、ゆっくり上に進みました。  
C: マンボウを左に大きくずらして置いたら、他の生き物よりも速く左に進みました。

※ 使用したプログラミングソフトは、Viscuit(ビスケット)です。

### クラブ活動など、特定の児童を対象として、実施する例

#### クラブ活動時間 プログラミングの作成を通して興味・関心を追求する学習活動

問題の発見と解決にコンピュータの動きを生かそうとする態度の育成(自由な発想で、画像や音声の制作や制御、様々な機械のモデルとそれを制御するプログラムを作成することができる。)

<画面上的動き>

<プログラミングの様子>

C1: 宇宙船から発射するレーザービームの絵を、めがねの右の宇宙船に付けました。  
C2: クリックしてレーザービームを発射できるように、左のめがねの宇宙船の上に、「さわると」\*1という命令のマークを入れてみます。  
C1: 次のめがねには、レーザービームをずらして置くと、レーザービームが動くようになりました。  
C1: 宇宙船を動かせるようにしないとレーザービームが当たりません。  
C1: 宇宙船を動かす命令も考えたいです。

※ 使用したプログラミングソフトは、Viscuit(ビスケット)です。

参考文献 ① 小学校学習指導要領(文部科学省 平成29年3月) ② 小学校学習指導要領解説 総則編(文部科学省 平成29年7月) ③ 小学校プログラミング教育の手引(第二版)(文部科学省 平成30年11月)  
④ 小学校プログラミング教育に関する研修教材(文部科学省) ⑤ 小学校を中心としたプログラミング教育ポータル(<https://miraino-manabi.jp/>)

# 【小学校】新学習指導要領の全面実施に向けて～主な指導のポイントと配慮事項～

- ◆ 小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から新学習指導要領が全面実施となります。
- ◆ 地域や学校の実態及び子供の心身の発達の段階や特性を十分考慮して、創意工夫を加え、学校の特色を生かした教育課程を編成していくためには、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領の内容について、十分理解する必要があります。
- ◆ そこで本特集では、新学習指導要領の全面実施に向け、「小学校及び中学校学習指導要領 各教科編」等から、主な指導のポイント及び配慮事項を掲載します。
- ◆ 各学校の教育課程編成、校内研究会や教科部会、学年会等で御活用ください。

### 国語

国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。

- ◆ **【知識及び技能】に「情報の扱い方に関する事項」を新設**  
「情報と情報との関係」と「情報の整理」に関する知識と技能の着実な習得を図る。
- ◆ **全ての領域に「考えの形成」に関する指導事項を位置付け**  
全ての領域において自分の考えを形成する学習過程を重視し、思考力、判断力、表現力等を育成する。

◆ 「話すこと・聞くこと」に関する指導の配当時数

第1・2学年	年間 35 単位時間程度
第3・4学年	年間 30 単位時間程度
第5・6学年	年間 25 単位時間程度

◆ 「書くこと」に関する指導の配当時数

第1・2学年	年間 100 単位時間程度
第3・4学年	年間 85 単位時間程度
第5・6学年	年間 55 単位時間程度

◆ 毛筆を使用する書写の指導の配当時数

第3学年以上	年間 30 単位時間程度
--------	--------------

### 社会

グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。

- ◆ 「社会的事象の見方・考え方」を整理  
「位置や空間的な広がり」、「時期や時間の経過」、「事象や人々の相互関係」などに着目（視点）して社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりする（方法）。
- ◆ **社会に見られる課題を把握して、その解決へ向けて社会への関わり方を選択・判断する学習の充実**  
自分たちができることを考え選択・判断

第3学年	○ 地域の安全を守る働き
第4学年	○ 人々の健康や生活環境を支える事業 ○ 自然災害から人々を守る活動 など
第5学年	○ 我が国の農業や水産業における食糧生産 ○ 我が国の工業生産
第6学年	○ 我が国の政治の働き ○ グローバル化する世界と日本の役割 など

◆ **新設内容**

第3学年	市の様子の移り変わり
第4学年	自然災害から人々を守る活動

◆ **内容に追加した事項**

第4学年	国際交流に取り組む地域
第5学年	情報を生かして発展する産業
第6学年	国際交流の役割 など

### 算数

数学的に考える資質・能力を育成する。

- ◆ **小・中学校教育を通じた統計的な内容の充実**
- ◆ **内容の移行等**（カッコ内は移行前の学年）

第3学年	Dデータの活用 【追加】最小目盛りが2、5などの棒グラフや複数の棒グラフを組み合わせたグラフを取り扱う。
第4学年	【追加】複数系列のグラフや組み合わせたグラフを取り扱う。
第5学年	【新設】統計的な問題解決の方法 複数の帯グラフを比べることを取り扱う。
第6学年	【新設】目的に応じた統計的な問題解決の方法

- メートル法の単位の仕組み k(キロ)、m(ミリ)などの接頭語（←小6）
- メートル法の単位の仕組み 長さや面積の単位（←小6）
- 【新設】簡単な場合についての割合
- メートル法の単位の仕組み 長さや体積の単位（←小6）
- 速さ
- 速さなど単位量当たりの大きさ（←小6）
- 分数×整数、分数÷整数（←小5）
- 平均値、中央値、最頻値、階級（←中1）

### 理科

自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する。

- ◆ **追加した内容**
- ◆ **自然災害との関連についての配慮事項**

第3学年	音の伝わり方と大小
第4学年	雨水の行方と地面の様子
第6学年	人と環境

◆ **学年を通して育成を目指す問題解決の力**

第3学年	主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力
第4学年	主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を着想する力
第5学年	主に予想や仮説を基に、解決の方法を着想する力
第6学年	主により妥当な考えをつくりだす力

◆ **自然災害との関連についての配慮事項**

第4学年内容B(3)については、自然災害との関連を図る。

第4学年	B(3) 雨水の行方と地面の様子
第5学年	B(3) 流れる水の働きと土地の変化 B(4) 天気の変化
第6学年	B(4) 土地のつくりと変化

天気、川、土地などの指導に当たっては、災害に関する基礎的な理解が図られるようにする。

### 音楽

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する。

- ◆ **改善・充実した内容**  
音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じた取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。
- ◆ **旋律楽器の選択に関する配慮事項**  
○ これまで第5学年及び第6学年において取り上げる旋律楽器として、例示していた和楽器が、第3学年及び第4学年の例示に新たに加わった。  
・ 我が国の音楽のよさを感じ取れる和楽器の中から、児童や学校の実態に応じて選ぶようにする。



### 図画工作

生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する。

- ◆ **指導上の留意事項**
- ◆ **情報機器の利用に関する配慮事項**

○ 「A表現」  
・ 「造形遊びをする活動」と「絵や立体、工作に表す活動」の指導事項の違いを明確にし、それぞれの活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」や「技能」を身に付けることができるようにする。

○ 「B鑑賞」  
・ 高学年の鑑賞の対象に「生活の中の造形」を位置付け、生活を楽しく豊かにする形や色などについての学習を深めることができるようにする。

○ 「A表現」及び「B鑑賞」の指導  
・ 【共通事項】がどのような場面にも含まれている事項として捉え、指導や評価を具体化する。

◆ **情報機器の利用に関する配慮事項**  
【新設】コンピュータ、カメラなどの情報機器を利用することについては、表現や鑑賞の活動で使う用具の一つとして扱うとともに、必要性を十分に検討して利用する。



### 生活

自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する。

- ◆ **改善・充実した内容**  
幼児期における遊びを通じた総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫（スタートカリキュラム）を行う。  
※ 低学年の各教科等にも旨を明記
- ◆ **履修についての配慮事項**  
【新設】児童の発達の段階や特性を踏まえ、2学年間を見通して学習活動を設定する。

### 家庭

生活をよりよくしようとする資質・能力を育成する。

- ◆ **新設内容**  
○ 幼児又は低学年の児童、高齢者など異なる世代の人々との関わり  
○ 「買物の仕組みや消費者の役割」  
○ 「家族・家庭生活についての課題と実践」
- ◆ **履修についての配慮事項**  
内容の「A家族・家庭生活」の(4)については、2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させる。

### 体育

心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持推進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

- ◆ **主な新設内容**  
○ 「走・跳の運動（遊び）」及び「陸上運動」については、「投の運動（遊び）」を加えて指導することができる。
- ◆ **「保健」に関する指導の配当時数**
- ◆ **主な追加した内容**
- ◆ **主な変更した内容**
- ◆ **内容の取扱いの配慮事項（運動領域）**  
運動が苦手な児童への配慮の例や運動に意欲的でない児童への配慮の例を具体的に例示

高学年の水泳指導	安全確保につながる運動
----------	-------------

中学年	味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム及び陣地を取り合うゲーム
保健領域	「心の健康」と「けがの防止」に技能の内容

低学年	体づくり運動	体づくりの運動遊び
高学年	体力を高める運動	体の動きを高める運動



### 外国語活動

コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

- ◆ **新設内容**  
○ 聞くこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表] の3領域を扱う。  
○ 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。
- ◆ **中学年・高学年連携に向けた配慮事項**  
中学年から「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、総合的・系統的に教科として学習を行う。

### 外国語

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

- ◆ **改善・充実した内容**  
○ 聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの5領域を扱う。  
○ 実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。

# 【中学校】新学習指導要領の全面実施に向けて ～主な指導のポイントと配慮事項～

### 国語 国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。

- ◆ **〔知識及び技能〕に「情報の扱いに関する事項」を新設**  
「情報と情報との関係」と「情報の整理」に関する知識と技能の着実な習得を図る。
- ◆ **全ての領域に「考えの形成」に関する指導事項を位置付け**  
全ての領域において自分の考えを形成する学習過程を重視し、思考力、判断力、表現力等を育成する。

◆ 「話すこと・聞くこと」に関する指導の配当時数	
第1学年及び第2学年	年間 15～25 単位時間程度
第3学年	年間 10～20 単位時間程度
◆ 「書くこと」に関する指導の配当時数	
第1学年及び第2学年	年間 30～40 単位時間程度
第3学年	年間 20～30 単位時間程度
◆ 書写の指導の配当時数	
第1学年及び第2学年	年間 20 単位時間程度
第3学年	年間 10 単位時間程度

### 社会 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる形成者に必要な資質・能力の基礎を育成する。

- ◆ **改善・充実した内容**
  - 伝統・文化等に関する学習
  - 主権者教育
  - 防災教育、海洋や領土に関する教育
  - グローバル化等への対応
- ◆ **各分野の履修**  
第1学年と第2学年では地理的分野と歴史的分野を並行して学習し、第3学年では最初に歴史的分野について学習し、地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開する。
- ◆ **各分野に配当する授業時数**

分野	総時数	第1・2学年合わせて	第3学年
地理的分野	115 単位時間	115 単位時間	
歴史的分野	135 単位時間	95 単位時間	40 単位時間
公民的分野	100 単位時間		100 単位時間

### 数学 数学的に考える資質・能力を育成する。

- ◆ **小・中学校教育を通じた統計的な内容の充実**

Dデータの活用	
第1学年	【新設】(用語) 累積度数を追加
第2学年	【新設】データの分布の比較 ・ 四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味 ・ 箱ひげ図で表すこと

- ◆ **内容の移行等**  
(カッコ内は移行前の学年)  
〔第1学年〕  
○ 用語「素数」を追加(←小5)  
○ 多数の観察や多回数の試行によって得られる確率の必要性と意味(←中2)  
○ 自然数を素数の積として表すこと(←中3)  
〔第2学年〕  
○ 【新設】(用語)「反例」を追加、  
〔第3学年〕  
○ 誤差、近似値、 $a \times 10^n$ の形の表現(←中1)

### 理科 自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

- ◆ **改善・充実した内容**
  - 〔第1分野〕  
○ 第3学年に加えて、第2学年においても、放射線に関する内容を扱う。
  - 〔第2分野〕  
○ 全学年で自然災害に関する内容を扱う。
  - 第1学年において、生物の分類の仕方に関する内容を扱う。
- ◆ **指導計画の作成と内容の取扱い**
  - 科学的に探究する学習活動の充実を図る。
  - 日常生活や他教科等との関連を図る。

◆ 指導の重点等の提示について	
第1学年	自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす。
第2学年	解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する。
第3学年	探究の過程を振り返る。

- ◆ **各分野に配当する授業時数**  
各学年においては、年間を通じて、各分野におよそ同程度の授業時数を配当する。

### 音楽 生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。

- ◆ **内容の取扱いの配慮事項**
  - 【新設】  
○ 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱う。  
・ 生徒が学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど、生徒や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と主体的に関わっていくことができるよう配慮する。
  - 歌唱及び器楽の指導における合わせて歌ったり演奏したりする表現形態では、他者と共に一つの音楽表現をつくる過程を大切にするとともに、生徒一人一人が、担当する声部の役割と全体の響きについて考え、主体的に創意工夫できるように指導を工夫する。
  - 我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導に当たっては、言葉と音楽との関係、姿勢や身体の使い方についても配慮するとともに、適宜、口唱歌を用いる。

### 美術 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。

- ◆ **指導上の留意事項**
  - 「A表現」では、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描き、豊かに発想や構想することを重視した学習活動にする。
  - 「B鑑賞」では、生徒の実感的な理解を深めさせ、生活や社会と豊かに関わる態度を育成する学習活動にする。
  - 【共通事項】では、生徒が多様な視点から造形を豊かに捉え実感を伴いながら理解することができる学習活動にする。
  - 「B鑑賞」(1)アの指導事項(7)及び(4)を、「A表現」(1)ア及びイと対応させることにより、表現と鑑賞を相互に関連させながら育成できるようにする。
- ◆ **「A表現」の指導計画作成上の留意事項**
  - 第1学年では、特定の表現分野の活動のみに偏ることなく、「A表現」(1)ア及びイのそれぞれにおいて(2)と関連付けて、描く活動とつくる活動をいずれも扱う。
  - 第2学年及び第3学年の各学年においては、「A表現」(1)ア及びイの双方を扱うようにするとともに、「A表現」全体を通して描く活動とつくる活動が一度は行われるようにする。  
・ 2学年間で「A表現」(1)ア及びイそれぞれにおいて(2)と関連付けて、描く活動とつくる活動をいずれも扱うようにする。

### 保健体育 心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

- ◆ **内容の取扱いの配慮事項**  
体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動の多様な楽しみ方を共有できるよう留意する。  
・ 原則として男女共習で学習を行うことが求められる。
- ◆ **体育分野及び保健分野に配当する年間の授業時数**  
3年間を通して、体育分野は 267 単位時間程度、保健分野は 48 単位時間程度とする。
- ◆ **体育分野の内容の授業時数**  
「体づくり運動」の授業時数については、各学年で7単位時間以上を配当する。  
「体育理論」の授業時数については、各学年で3単位時間以上を配当する。

### 技術・家庭 よりよい生活に向けて、生活の実現や持続可能な社会の構築を工夫し創造する資質・能力を育成する。

- ◆ **技術分野及び家庭分野の授業時数**  
技術・家庭科の標準の授業時数は、第1学年及び第2学年で 70 単位時間、第3学年で 35 単位時間とし、各学年において、技術分野及び家庭分野のいずれも履修させる。
- ◆ **技術分野の内容の履修**  
「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」の四つの内容を全ての生徒に履修させる。
- ◆ **家庭分野の内容の履修**  
「A家族・家庭生活」の(4)、「B衣食住の生活」の(7)、及び「C消費生活・環境」の(3)については、これら三項目のうち、一以上を選択し履修させる。  
「A家族・家庭生活」の(1)については、小学校家庭科の学習を踏まえ、家族・家庭の機能について扱うとともに、ガイダンスとして第1学年の最初に履修させる。

### 外国語 簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

- ◆ **新たに追加された文法事項**
  - 感嘆文
  - 主語+動詞+目的語+補語のうち、補語が原型不定詞のもの
  - 現在完了進行形
  - 仮定法のうち基本的なもの
  - 主語+動詞+間接目的語+thatなどで始まるもの
- ◆ **授業を英語で行うことを基本とする。**
- ◆ **小学校で学習した語に 1600～1800 語程度の新語を加えた語を扱う。(現行 1200 語→新学習指導要領 2500 語)**

**本特集の活用例**

- ・ 校内研究会、教科部会及び学年会等の資料として
- ・ 授業時数の確認の資料として
- ・ 系統的な指導につなげる資料として
- ・ 指導内容の確認の資料として
- ・ 週ごとの指導計画の作成に係る資料として
- ・ 授業観察の視点として
- ・ 日々の指導の振り返りの視点として
- ・ 研究授業の観察の視点として など

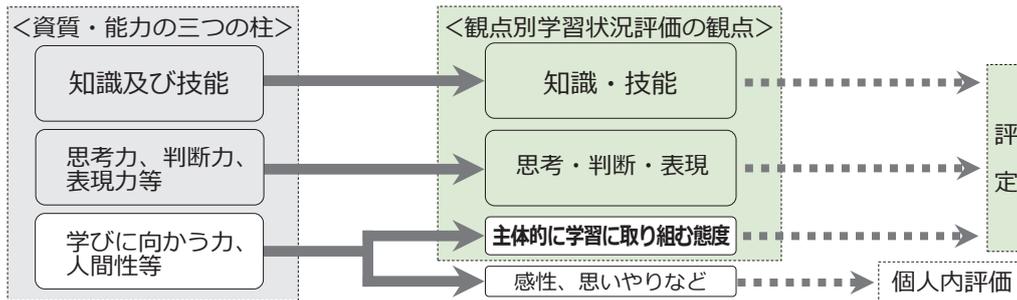
参考文献 ① 小学校及び中学校学習指導要領(文部科学省 平成29年3月) ② 小学校及び中学校学習指導要領解説 総則編(文部科学省 平成29年7月) ③ 小学校及び中学校学習指導要領解説 各教科編(文部科学省 平成29年7月)

# 観点別学習状況の評価の考え方

- ◆ 各教科における観点別学習状況の評価については、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で示されたことを踏まえ、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されました。
- ◆ 「主体的に学習に取り組む態度」については、従来から重視されてきた各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという趣旨が改めて強調されました。
- ◆ ここでは、観点別学習状況の評価の考え方について紹介します。

## 各教科における評価の基本構造

各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況进行评估するものです。特に学びに向かう力、人間性等は、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、「感性、思いやりなど」などの観点別学習状況の評価にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分があります。



## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の基本的な考え方

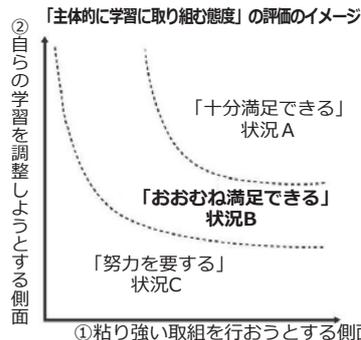
「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らして、次の二つの側面を評価することが重要です。

### ① 粘り強い取組を行おうとする側面

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面

### ② 自らの学習を調整しようとする側面

①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面



※ ①②の二つの側面は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現われるものと考えられることから、双方の側面を一体的に見取ることが考えられます。

例えば、自らの学習を全く調整しよとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではありません。

資質・能力の具体的なイメージや、どのような方針によって評価を行うのかを児童生徒に事前に示すことで、自己の学習の調整を図るきっかけになることが期待されます。



### －先生方の質問にお答えします－

質問 1回の授業で、3つの観点全てを評価しなければならないのですか。



回答 学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが大切です。したがって、観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価の場面を精選することが重要です。

質問 「十分満足できる」状況(A)はどのように判断したらよいのですか。



回答 各教科において「十分満足できる」状況(A)と判断するのは、評価規準に照らし、児童生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断される場合です。「十分満足できる」状況(A)と判断できる児童生徒の姿は多様に想定されるので、学年会や教科部会等で情報を共有することが重要です。

- 参考文献 ① 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(文部科学省 平成31年1月21日)  
 ② 学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編(文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和元年6月)

次号  
予告

「たまじむ」第3号  
2月28日発行予定

- 特集① 東京都多摩地区教育推進委員会報告  
 特集② カリキュラム・マネジメントと総合的な学習の時間  
 特集③ 指導と評価の一体化  
 情報 オリンピック・パラリンピック教育

※ 内容については変更する場合がありますので、御了承ください。